

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024 年 1 月 23 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0012

所在地 東京都渋谷区広尾1-1-35マンション広尾台808

評価機関名 一般社団法人Riccolab.

認証評価機関番号

機構 17 - 241

電話番号 03-6433-5280

代表者氏名 渡辺 真紀

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名			担当分野	修了者番号
	①	岡田賢宏		経営	H0201011
	②	後藤涼子		福祉	H1701021
	③	渡辺真紀		福祉	H0201062
	④				
	⑤				
	⑥				
福祉サービス種別	認可保育所				
評価対象事業所名称	みんなのおうち保育園				
事業所連絡先	〒	156-0045			
	所在地	東京都世田谷区桜上水5丁目3番28号			
	Tel	03-6379-8911			
事業所代表者氏名	施設長 大原 真由美				
契約日	2023 年	9 月	1 日		
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年	10 月	6 日		
利用者調査結果報告日	2023 年	12 月	11 日		
自己評価の調査票配付日	2023 年	10 月	2 日		
自己評価結果報告日	2023 年	12 月	11 日		
訪問調査日	2023 年	12 月	18 日		
評価合議日	2023 年	12 月	18 日		
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査は、オンライン回答システムによるものと紙ベースでのアンケート調査を実施した。職員自己評価においては、職員自己評価記入要領を配布するとともに、実施方法を録画した動画を使用して職員説明会を実施し、第三者評価及び職員自己評価への理解を深めた。オンライン回答システムによるものと紙ベースでの自己評価分析を実施した。				

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年 1 月 17 日

事業者代表者氏名 大原 真由美

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1) 一人ひとりの子どもに愛情を注ぎ、安心してくつろげる生活の場を提供します。 2) 子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を守ります。 3) 保護者や地域社会と協力して、子どもたちの健やかな成長を支援します。 4) さまざまな体験を通じて、心身共に健康で、豊かな感性や表現力を育み、創造性の芽生えを養います。 5) 成長発達を理解し、受け止め、個々の子どもに合わせた活動を通して心身の発達を図ります。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 社会福祉法人福音寮の基本理念“ほっとしたつながりで育ち合いましょう”を元に、常に誠実さを大切にし、誰からも信頼されるような関係作りができること。 自分自身の成長を行動指針として、理念の実現に向けて学び・考え・行動できること。 それには職員自身が、自分がほっとできる場、居場所を作り上げていくと共に、人もほっとさせる人間性を望みます。 子どもにとって、保育士をはじめ職員は、全幅の信頼と心身を委ねる身近な大人です。責任をもって子どもを支えていく姿勢を求めています。 （2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） 人は誰でも、人から必要とされたい・愛されたい・ほめられ認められたいとの欲求があります。これは子どもも大人も同じです。 保育園で働く私たちが子どもにたくさんの愛情を注ぎ、あなたが大好き、あなたが大切と、心から認め、受け入れることで子どもに自己肯定感をもたらします。子どもと保護者に優しさと、受容する気持ちを兼ね備えた姿勢で支援できる人を求めます。 大切な乳幼児期を支えることの重要性を自覚し、職員自らが感受性豊かに社会のニーズをしっかりとつかみ、感性を磨くことを期待しています。

調査対象

保育園を利用している世帯

調査方法

オンライン回答システムと紙ベース回答によるアンケート調査

利用者総数

99

利用者家族総数(世帯)

80

共通評価項目による調査対象者数

80

共通評価項目による調査の有効回答者数

60

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

75.0

利用者調査全体のコメント

利用者総数99名中、60名から回答を得ることができた。満足度が高かった項目としては、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」などがあげられる。総合的な満足度では、41名が「大変満足」18名が「満足」の回答であった。いろいろな活動を取り込んでいただきありがとうございます、活動内容もとても多彩で素朴ながら子どもたちの五感に訴えるものが多く電子的なもの(タブレットなど)に頼っておらず大変ありがたく思っている、子どもも先生を慕っているのが分かるのでしっかり対応していただいていると感じる、子供の気持ちにも保護者の気持ちにも大変よく寄り添っていただいている感謝しています、などがあがっている。意見や要望としては、年長になると全体に発信してくださるお便りでクラスの様子を知ることができますが連絡帳やお迎え時も家庭からの発信がなければやりとりがないため子ども個人の様子はわからないことが多かったように思います、良い意味で園庭がない分はもっといろいろな公園に出かけてほしい、などがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	60	0	0	0
回答者全員が保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っていると回答している。家ではできないことも保育園では体験させてもらっている、四季折々のイベントを事前と学べる工夫がされていてありがたく思っています、絵の具あそびなど家ではなかなかしない経験をさせていただいております、男女問わず若い先生が多いせいルールも比較的寛容でのびのびと過ごせていると感じます、などがあがっている。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	57	3	0	0
57名が保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。いつもイベントごとを本人が楽しみにしている、からだダンダンやエビカニクスなどの運動が好きで楽しんで行っているようです、毎日好きな工作などをやらせてもらい楽しそうに活動しています、子供のやりたいことを尊重して活動してくれていると思います、などがあがっている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	56	4	0	0
56名が提供される食事は、子どもの状況に配慮されていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。姉の時代から保育園の給食には定評があります、いつも美味しそうだなあと思って写真を見ている、給食が大好きのようでどのような食事を出しているのか参考になってます、いつも完食しているみたいです、などがあがっている。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	56	4	0	0
56名が保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。コロナが5類になり色々イベントなどもやって頂けるようになったので社会との交流が増えたと思います。年長になると野菜の収穫や地域の活動や遠足など他の系列園との交流を交えた行事が増え多くの経験を積ませていただき感謝しています、スポーツ大会なども用意してくれてありがたいです、あまり行事が多い訳ではないので十分とはいえない、などがあがっている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	46	6	0	8
46名が保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。寄り添ってくださいます、急な残業の際も時間が遅くなるにつれて先生の数が少なくなり大変だと思いますが嫌な顔ひとつせずお氣をつけてお迎え来て下さいと言ってくださいます、延長保育の直前に遅れることがわかった時も柔軟に対応していただき助かりました、過去にまだ延長保育の利用がない、などがあがっている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	50	8	1	1
50名が安全対策が十分取られていると思うと回答している。普段の保育の全容はわかりかねるためなんとも言えませんが心配に思ったことは一度もありません、テラスのフェンスの補強をしてくださりいつも見てくださっていると感じます、実際に何回か怪我をして帰ってきたことがある、送迎時に何度も危険だと思うことを見かける、などがあがっている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	52	7	1	0
52名が行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分と回答している。コロナ禍のあいだもいろいろ工夫してくださいました、早くから連絡いただきありがたいです、基本的に土曜の開催が多いので助かります、スケジュール出してくださいるので助かります、などがあがっている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	53	7	0	0
53名が子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。成長過程で子供の困ったことを気軽に相談できる、いつも相談に乗っていただきありがたいです、親身になって話を聞いてくださり兄弟についても気にかけてくださいます、などがあがっている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	57	2	0	1
57名が施設内の清掃、整理整頓は行き届いていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。いつも綺麗で清潔な環境で保育いただきありがたいです、毎日こどもたちがものすごいきおいで遊んでいるのにきれいな状態を保てていてすごいなと思います、預ける時間が変わったので最近見れていないのですが掃除機をかけてくださっている姿をよく見ていました、などがあがっている。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	55	3	2	0
55名が職員の接遇・態度は適切と回答している。こどもたちにも尊厳を持って接していただき感謝です、皆さん笑顔が多く優しいです、いつもにこやかに対応してくれます、いつも思いやりがあり頭が下がります、などがあがっている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	59	1	0	0
59名が病気やけがをした際の職員の対応は信頼できると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。感染症の病気の時も普段と変わらず接してくれています、些細なことでもご連絡いただけますし信頼しています、事実を伝えてくれるのと適切に対応してくれています、などがあがっている。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	53	5	0	2
53名が子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。過度にはいりこまずまずは子供たちでの解決を促してくれている、保育中は目がいくつあっても足りないと思うのですが子どもたちのトラブル(手を出したり出されたり)を未然に防いでいच्छやるのを見かけて本当にすごいと思いますしありがたく思います、誠意を持って対応してくださっています、双方の気持ちをくんでいただいている様子があるので信頼しています、などがあがっている。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	59	1	0	0
59名が子どもの気持ちを尊重した対応がされていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。本人が納得するまで付き合ってくださってありがたいです、機嫌が良くないときも気持ちに寄り添ってくれていると感じます、子供の思いを聞いて対応してくれていると思います、こちらに関しては正直先生方の力量の差があるかとも思います、などがあがっている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	56	1	0	3
56名が子どもと保護者のプライバシーは守られていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。見聞きしたことないです、との回答があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	55	4	1	0
55名が保育内容に関する職員の説明はわかりやすいと回答している。毎日少しでも出来事を伝えようとしてくださいます、お迎えの時に様子を伝えてくれるのでありがたいです、ドキュメンテーションを増やして頂けると写真だけでも良いので嬉しいです、などがあがっている。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	46	8	0	6
46名が利用者の不満や要望は対応されていると回答している。「いいえ」の回答はみられなかった。直接お話できないときも連絡帳等でコミュニケーションが取れていると思います、不満をかんじたことはないです、以前に疑問に思ったことを伝えたとこ保育士さんはその後真摯に対応してくれていたと思います。が園としてどう対応しているのか不透明な部分がある、などがあがっている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	38	8	1	13
38名が外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられていると回答している。相談したことはないです、保護者の目に入りやすい場所に掲示してあります、などがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている 〇非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している 〇非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	☒ あり ☐ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している 〇非該当
	☒ あり ☐ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている 〇非該当
	カテゴリ1の講評	
	子どもの人権尊重等、保育理念を念頭に置いた話し合いができるようになってきている 園が目指している理念や方針についての理解が深まるように、各クラスの入口等、各所に保育理念「ほっとしたつながりで育ち合いましょー」、「誠実・信頼・成長(3S)」等を一枚にまとめた文書を掲示し、職員や保護者が日々、確認できる環境にしている。また、保育カリキュラム会議の際等に、保育理念につながる実践方法について、適宜、助言等を行い進めている。実際に、職員同士で話し合う場面では、子どもの人権を最優先した関わり方となっているかを前提に、子どもの安全確保に向けた方法で最終決定に至る等、理念が浸透してきている。 役職者の配置等、年間を通して安定的に運営できる体制を維持していくことが期待される 園運営の安定化を目指して、昨年度までは園長と副園長、主任、乳児リーダー、幼児リーダーの体制が構築されていた一方で、今年度は主任が不在となったり、乳児リーダーの異動等で、組織編成の変更が余儀なくされた中での運営となっている。そのため、保育業務を優先する場面が多くなり、例年よりも運営管理業務にかかる比重が減少傾いたことが課題となっている。引き続き、それぞれの役職者に想定される役割と責任を担うことができる体制を構築するとともに、年間を通して維持することで、安定感を高めていくことが期待される。 ミーティングの内容について、職員間でスムーズに情報共有するしくみの整備が望まれる 重要な案件を決定する機会として、3園合同の園長会議や定例の職員会議、さらには委員会活動等があり、それぞれの決定事項を日々のミーティング等で、随時、伝達しながら職員全体での情報共有に努めている。ただし、日々のミーティングで伝えたことを持ち帰り、伝える方法がクラスや担当した職員により異なることもあり、伝達漏れが生じる状況がみられる。今後は、ミーティング記録を一括したり、IT技術やインカムの活用等で、効率的に情報共有できるしくみの整備が望まれる。	

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行 サブカテゴリ1(2-1) 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6		
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している ○非該当 ●あり ○なし 5. 事業所の経営状況を把握・検討している ○非該当 ●あり ○なし 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している ○非該当		
サブカテゴリ2(2-2) 実践的な計画策定に取り組んでいる サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5		
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している ○非該当 ●あり ○なし 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている ○非該当		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる 評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している ○非該当 ●あり ○なし 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる ○非該当		
カテゴリ2の講評 法人内外の会合を通して、施策や地域ニーズ等の情報を把握し、運営の参考にしている 施設運営に有効な情報について、法人で児童福祉関連のさまざまな事業を展開しているため、法人園長会や法人内の保育園3園の合同園長会等を通して、行政の施策や地域ニーズ等のタイムリーな情報が入手できる他、区の保育ネットや私立園長会、保育の専門誌等で保育業界の動向を把握し、運営の参考にしている。また、保護者の意向把握については、日頃の連絡帳・ノートのやりとりや、直接コミュニケーションをとる場面で把握している。なお、必要に応じて保護者アンケートを行い、園の方針の浸透度などを把握する取り組みの充実が期待される。 3園合同の委員会を通して事業環境把握に努め、将来ビジョンの明確化に取り組んでいる 中・長期計画の立案については、法人内の3園合同の未来構想委員会で検討を進めており、園長だけでなく職員もメンバーに加わる形で取り組んでいる。具体的には、区の人口や出生数の現状や虐待対応状況、他園の取り組み例等の情報を収集しながら、将来的に法人内で運営する園の数についてや、地域交流に向けた新たな取り組み、入園希望者へ園の情報をアピールする方法等、さまざまな領域について検討を重ねながら、将来ビジョンの明確化を目指している。 事業計画書の進捗状況について、各職員の理解を深める取り組みの充実が望まれる 単年度の事業計画書で設定した目標の進捗管理については、主に3合同の園長会で毎月、確認しながら反省点や課題を共有しつつ、翌月以降の運営へ反映することで、計画の推進力を高めている。一方で、今回の職員自己評価結果からは、事業計画書の内容の進捗状況についての理解が十分進んでいない状況がうかがえる。今後は、例えば、職員会議の冒頭で園長から事業計画の進捗状況や3園合同会議で話し合われている事柄を伝達する時間を設ける等により、各職員の園運営に関する理解をさらに深めていくことが望まれる。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	☐ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	☐ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	☐ 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	☐ 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	☐ 非該当

	カテゴリー3の講評
	子どもの人権や主体性の尊重、虐待防止について、職員の理解浸透を図っている 理念の中には、子どもの人権や主体性の尊重、虐待防止等が含まれており、全体的な計画にも反映したうえで、各職員の自覚の下、具体的なカリキュラム作成や日々の保育を進める際の基盤となっている。年4回、子どもの人権シートに基づく振り返りを行ったり、毎日のミーティングで気になる言動等についても振り返りながら、子どもの尊厳を尊重した保育が展開できるように努めている。万一、家庭で虐待の疑いがある状況が認められた場合には、迅速に通告することを共通認識するなかで、組織として迅速に行動している。 保護者からの意見や要望等へ対応し、法人内の委員会で報告する等、透明性を高めている 苦情解決のしくみについて、入園時に直接、保護者へ説明して理解を得ている他、「令和5年度の苦情解決委員の皆様」というポスターを園の入口に掲示している。それぞれの委員の写真とメッセージを盛り込み紹介することで、親近感を抱きやすい工夫がされている。また、日頃、保護者から寄せられた声を把握するために、「意見・要望」として別に記録しながら、解決方法も含めて情報を蓄積することで、園の取り組みの適正化を検証している。さらに、寄せられた要望等を法人内で定例開催している権利擁護第三者委員会で報告する等、透明性を高めている。 実習生の受け入れや一時預かり事業、給食試食会等、園の専門性を積極的に還元している 園の専門性を地域社会に還元する取り組みとして、実習生を積極的に受け入れて将来の保育士等の育成に貢献したり、小学校の長期休暇に卒園生をボランティアとして受け入れる営みが定着している。また、一時預かり事業を実施していることに加えて、地域の子育て家庭を対象に給食試食会を行う等、地域支援・家庭支援の取り組みを進めている。実際に、一時預かり事業等を経験した家庭が入園するケースもある等、好循環もみられている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	☐ 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の 標準项目实施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	☐ 非該当
カテゴリー4の講評		
リスクマネジメント体制が確立されている一方、BCPについての理解促進が期待される 想定されるリスクのうち、事故予防対策や感染症予防対策、防災、不審者対応等のマニュアルを作成し、組織として具体的な対応方法を明確にして、職員間で共通認識を深めて取り組んでいる。同様に、BCP(事業継続計画)についても作成し、必要に応じて見直しを行っている。一方で、今回の職員自己評価結果からは、実際に大規模災害が発生して園が被災した際に、どのような行動をとるかの理解が進んでいない状況がうかがえるため、BCPに基づく訓練の充実等により、各職員が自らの役割行動についての認識を高めていくことが期待される。 日頃の保育場面に潜むリスクを把握し、3園合同で分析しながら安全性向上に努めている 日頃の保育場面で、職員が把握したリスクをヒヤリハット報告書に情報をとりまとめ、共有するしくみが整備されており、法人内の3園合同でヒヤリハット事例や事故事例等を毎月、集計してグラフ化し、要因分析や発生しやすい時間帯、場所等の特定に努めている。また、今年度は、安全性向上につながるハード面の整備として、2階のテラスから物が落下する危険を回避するために、新たにネットを設置する等、日頃の保育場面で職員や気づいたり、保護者から伝えられた危険な状態等について、改善に結びつけている。 園に蓄積される情報の管理方法を明確にして、外部への漏えい防止対策を講じている 園の情報のうち、書類は情報毎に分類し、保管場所を決めて収納しており、個人情報が含まれる書類については鍵のかかる書庫で厳重に管理し、外部への持ち出しを防止している。また、データ化された情報は、パソコン等使用規定に基づき、パスワード設定やアクセス権限の付与、パソコンの保管方法等、定められた方法で取り扱うことで、関係者以外がデータ情報を入手できないようにしている。なお、作成された記録のうち、手書き文書が多い状況がみられるため、徐々にデータ化することで、迅速かつ効率的に情報共有しやすくしていくことが望まれる。		

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評	
離職がほとんどない状況となっている一方、計画的な採用が経営課題の一つとなっている 園の人員体制について、今年度は離職がほとんどなく定着率が高い状況となっている。なお、新規職員の確保に向けて法人全体で取り組んでおり、募集に対する反応が少ない状況で、法人内の3園の運営状況を勘案しつつ、人事異動も行う等、取り組んでいるが、計画通りの配置が進まないことが経営課題の一つになっている。また、園が開設されて9年程となり、若手職員が多く勤務している状況の中、各職員が将来的な展望を抱き、数年後にどのような立場で働くことになるか等、キャリアパスのしくみについて、職員が実感できる取り組みの充実が期待される。 職員の学びの機会を計画的に用意しながら、保育の質の向上を目指して取り組んでいる 職員の育成については、無資格の非常勤職員も出席する形で園内研修を実施したり、保育士の資格取得を希望する職員もいる等、保育の質向上への意欲が高まってきている。また、常勤職員については、人事考課制度の中で自己申告書に基づく年度初めの個別面談の際に、学びたいテーマや目標を共有し、それぞれ学びの機会の創出に努めている。園内研修の実施に加えて、他園を見学する機会を用意し、そこで学んだ保育実践等を園で発表する形で職員間で共有しながら、保育の質の向上を目指して取り組んでいる。 お互いに助け合える職場環境が構築されている一方、休憩時間の確保が課題となっている 日頃から率直に意見交換できる職場風土が醸成されていることや、トラブル等が発生した場合に、すぐ園全体で共有し、課題解決に向けて取り組めること、クラスや立場を越えて協力し、助け合える職場環境が、職員の満足度につながっている。また、衛生委員会でストレスチェックを行う等で、個別状況を把握しつつ、ストレス解消に向けた検討を進めている。なお、休憩時間を確保することが課題となっており、1日のうちに20～30分程、とれる状態となってきている。業務の効率化や休憩時間帯の明確化等、休憩時間の確保に向けた取り組みが望まれる。	
カテゴリー7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
保育の専門職を育てることを重要課題に設定し、保育の質の向上を目標に掲げた。 実際に、外部研修を活用するため、コロナ禍でも受講できるリモート研修を職員がスムーズに受けられる環境を整備した。また、職場内研修では、子どもの人権擁護研修や、「語りたいことシート」、「ミニアセメントシート」の目的や活かし方等を学ぶ機会を持った。 結果として、「ミニアセメントシート」については、子どもの困り感について職員一人ひとりが事例を通して意見を出し合うことができ、普段の保育場面でも、何に困っているかを把握しようとする職員の姿が見られる等、成果があった。一方、「語りたいことシート」については、保護者が記入することが前提で進めるため、多くの記入を得ることが難しいことに加え、保護者から職員が聞き取るには高度な技術を要するため、定着につながらなかった。 そこで今年度は、「ミニアセメントシート」について、さらに各クラスからの提出を促進するために、書き方にこだわらず、まずは提出することを目指して取り組む他、区の研修で発表する機会を用意する等、充実を目指している。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評価の選択に関する講評 園では、保育の質の向上を目標に掲げるとともに、導入している「ミニアセメントシート」や「語りたいことシート」等を有効活用することや、外部研修を受講する機会を充実させることで、職員一人ひとりの専門性向上につなげていくことを目指して取り組んでいる。リモート研修を受講しやすいように、職場環境を整えたことにより、受講の機会が増えて、新たな知識や技術を職員が身につけることに一定の成果が見られた他、「ミニアセメントシート」と「語りたいことシート」の活用についても、職場内研修で学びながら実践に役立つように取り組んだ結果、「語りたいことシート」については、保護者と関わりながらシートを作成するため、現在の職員の力量では高度な方法であることが明らかとなり、有効活用するまでには至っていない。そこで今年度は、「ミニアセメントシート」をさらに活用するために、シートの提出件数を増やすため、とにかく出してみることを奨励したり、区の研修で職員が実践例を発表する計画を立てる等、推進している。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

園では、理念に掲げる虐待防止を徹底するため、配慮を要する養育困難家庭への支援を目標に掲げた。実際に、園長が地域子ども家庭支援センターとの窓口となり、副園長やリーダー層が連携できる体制を構築した他、実際のケースについても、3か月、1年、1年以上など、継続的に関わってきている。結果として、地域別の子ども家庭支援センターのケースワーカーと連携しながら、子どもの状況や保護者の変化等を必要に応じて報告した。また、保護者からの子育てや発達相談には個別に面談を行い、虐待につながらないための支援を行うことができた。今年度も虐待防止を目標に掲げるとともに、保護者の悩みに寄り添ったり、送迎時の保護者の表情やつぶやきも含めて職員が把握したことを園長まで報告し、面談につなげる等、一連のしくみが安定的に機能することを目指して取り組んでいる。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

園では、虐待防止の役割を自覚して、配慮を要する養育困難家庭への支援を目標に掲げるとともに、保護者の状況を把握しつつ、個別の面談を行い、悩み事等を確認しながら、ともに考える姿勢の維持に努めている。園内だけでなく、地域別の子ども家庭支援センターのケースワーカー等、外部の機関との窓口を園長が担いながら、状況によっては1年以上、継続しながら連携体制のもとで必要とされる役割を遂行している他、子どもや保護者の様子の変化を丁寧に把握し、必要に応じて個別面談の機会を持つ等で、虐待につながらないための支援に取り組み、一定の成果がみられている。今年度も引き続き、園内外で虐待防止に向けた取り組みを進めるとともに、状況に応じて、園長だけでなく、最適と思われる職員を選定して保護者と関わる等、組織力を発揮できる体制構築も意識しながら取り組みを進めている。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している			
評点(〇〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
法人のWEBサイトを通して、園の方針や特色、概要等の情報を提供している 法人全体でホームページを公開しており法人が保育園を設立した経緯や想い、大切にしていること等が掲載されている。園のページには4つの方針と特色の他に、生後57日からの0歳児保育やクラス編成、職員構成、保育時間には7時15分から18時15分の保育時間と20時15分までの延長保育を実施していることが掲載されている。園のイベント録には2歳児の雨の日のだんご虫制作や、0歳児の成長の姿が写真も掲載して、保育の様子を感じることが出来る。ホームページの充実に向けて取り組んでおり、来年度以降のさらなる園の情報発信が期待される。 区や関係機関に園の情報を提供して、広く地域の方へ園を知ってもらえるようにしている 園では毎月、園の事業内容の報告や入園退園による園児数の報告、一時保育の利用人数等を、区へ報告している。その内容から区では毎月の公私立保育園の空き情報をホームページに掲載して、利用希望者へ情報提供を行っている。私立保育園長会に園長が出席して区や他園の最新の情報の収集に努め、地域の町会や自治会にも参加して、園児と職員が地域の方と一緒に事業に取り組みながら、情報収集と園の情報の発信に努めている。おでかけ広場には園のパンフレットや毎月の園だより等を置き、一保育と地域向けのイベントポスターを掲示している。 園見学の回数を増やして、できるだけ多くの見学者を受け入れている 今年度、見学希望者が多いことから日程は希望する日程で行えるようにし、できるだけ多くの方が園見学できるように見学時間帯を一日4回に決めて行っている。電話での受け付けの際に午前2回、午後2回の時間帯を知らせ、都合に合わせて選択できるようにしている。子どもが活動している様子を実際に見てもらうことで、入園後の我が子の園生活をイメージしやすい様に配慮している。見学の際には法人の理念や園の方針を伝え、子どもと保育者が対等な立場として「先生」という呼び名を使用しない事等を、丁寧に伝え理解を得るようにしている。			

サブカテゴリ-2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリ-2の講評		
全体会を開催して、重要事項説明書の内容を園長から説明し確認書を得ている 今年度は3月の土曜日の午後に、全新入園児の保護者対象の入園説明会を開催している。園長から保育園のしおり(重要事項説明書)に基づいて、保育理念・保育方針の内容や給食、保健衛生、災害時の対応、避難場所の確認等丁寧に保護者へ説明している。さらに保育園と家庭との連携として連絡帳のやり取りや、行事・保育参加・保護者会等の開催と参加、感染症による出席停止基準の表の説明も行い、保護者の理解を得るようにしている。保護者からの質問にも答えそのうえで確認書の書面の各項目に、保護者にチェックをしてもらい署名を得ている。 個別事情がある場合には専門職が同席して、個別面談で丁寧に聞き取り把握している 園では様々な個別配慮が必要な子どもも受け入れており、入園の際には子どもがスムーズに集団生活を送れるよう、必要な対応方法や配慮等を個別面談の中で確認している。食物アレルギーのある場合には栄養士、看護師が同席して園の食物アレルギーに関する資料を配布しながら、給食での対応方法や主治医による書面の提出が必要な事等を説明し依頼している。障害等がある場合には保護者に子どもの特性や対応方法を確認し、通所施設の情報等も把握している。その上で集団生活の中での配慮等を職員会議で話し合い、職員間で把握している。 0歳児の慣れ保育は同じ時間帯で行い、保護者同士が顔見知りになれるようにしている 慣れ保育については入園前の個別面談で、環境の変化に対する子どもの負担軽減を図る目的を説明して、保護者の理解を得ている。今年度0歳児では全員が同じ時間帯で、慣れ保育を行っている。初日は1、2時間程度にし、保護者に保育室内を見てもらい登園時の準備やロッカー等の使い方、降園時の支度方法等を知らせている。その機会に保護者同士が顔を合わ顔見知りになることで、親しめるようにしている。また園で初めての授乳や離乳食を食べる際には、保護者に食べさせてもらうことで子どもの安心感に繋げ、職員もやり方を把握できるようにしている。		

サブカテゴリー3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	☐ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	☐ 非該当
サブカテゴリー3の講評		
全体的な計画の内容を踏まえて、養護と教育の領域を意識した計画を作成している 法人3園で保育所保育指針に基づいた、全体的な計画のフォーマットや基本的な内容を定め、そのうえで園独自の内容を盛り込んだ、全体的な計画を作成している。発達の特徴とねらい・養護・教育・食育・保護者支援・地域支援の項に分けて、教育には0歳児は3つの視点、1歳児以上には5つの領域を記載して計画されている。その内容を踏まえて、各年齢毎に年間指導計画と月間指導計画に養護と教育の項目を設けて、詳細な内容が立案されている。更に計画の振り返り際には項目ごとに詳細な評価反省を行い、次の計画へと繋げられている。 保育の計画は、保護者会や掲示等でわかりやすく保護者へ伝えている 春の保護者会では今年度の各クラスのねらいや保育の計画を、子どもの姿と共に保護者へわかりやすく伝えている。進級してからの様子と、これから成長発達して行く姿を年齢による特徴的な姿を具体的に伝える事で、保護者が育児への見通しが持てるように配慮している。クラスの保育目標や計画により、子どもの成長や発達を援助していくことを伝えている。他にも全クラスの週の保育の計画を表にした、「組別週の活動予定」を保護者向けに掲示して、保育計画を具体的に知らせている。実施報告にはドキュメンテーションの手法を取り入れ始めている。 保育の計画は項目ごとに振り返りを行い、子どもの姿を職員間で共有している 月・期・年毎に保育の計画の振り返りを行い、その内容を次の計画に反映させる等、PDCAサイクルを意識しながら取り組むようにしている。月末にはクラス内で月の計画を項目毎に振り返り、保育士の援助や配慮、子どもの成長や発達の姿等も確認しながら、記録して翌月の計画に反映している。その内容は職員会議の中で、カリキュラム反省としてクラス毎にエピソードも交えながら伝え合い、全職員で共有し合っている。他にアセスメント会議を開催して子どもが困っている行動を子ども主体に捉え、解消に繋げるよう職員間で話し合い共有している。		

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	☐ 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
個人情報の取り扱いについて、重要事項説明書で理解を得るようにしている 入園の際には、重要事項説明書の中に「個人情報の取り扱い」の項目を設けて、保護者へ説明している。園では「個人情報保護規定」を作成していること、個人情報は適切な保育の実施、運営事務のために利用する事、写真・動画は販売用、ドキュメンテーション用に保護者に子どもの普段の生活を伝える目的で撮影する事が記載されている。さらに保育参加等で保護者の写真撮影の禁止と、行事等の写真のWEB掲載の禁止も記載して、保護者に説明して理解を得るようにしている。その他、外部に情報を提供する際には、必ず保護者の同意を確認している。 区のガイドラインや人権チェックシートを活用して、職員の意識を深めている 園では昨年度より、区の保育の質のガイドラインの内容の確認を行い、人権チェックシートを活用して一人ひとりの職員が日頃の自分の保育の仕方や、子どもへの対応等を振り返る機会を設けている。チェックシートには、子どもの権利・職員に求められる資質・保育内容・保護者支援等、細かな項目毎に具体的な保育者の声掛けや対応方法が掲載されており、職員が期毎に振り返りチェックを行っている。自分でチェック内容を振り返り、クラス、全職員で話し合う機会を設けることで、職員の意識を深め子どもの人権を大切にしたい保育に繋げている。 区の関係機関と連携を図り、園全体で虐待防止に努めている 区の虐待研修には職員を派遣して、区の最新の現状や対応方法等の情報を収集し、その内容を職員会議の中で報告することで、全職員で共有するようにしている。また要保護児童地域支援協議会に参画し、子ども家庭支援センターや区に移管された児童相談所と連携して、必要な情報を共有し合っている。様々な事情の家庭への養育援助、虐待予防が園として大きな役割となっていることを認識して、毎日のミーティングでは登園時の子どもや保護者の様子等を確認し合い、変化がある場合には全職員で情報を共有しながら見守り、関係機関とも連携を図っている。		

サブカテゴリー6		
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	☐ 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	☐ 非該当
サブカテゴリー6の講評		
保育園をめぐる制度や法令の変更に伴い、マニュアルの改訂を行っている 法人では保育園の運営に必要な各種マニュアルや手引書を作成して、各園に設置している。保育安全マニュアルや防災マニュアル・食物アレルギー対応の手引き・虐待防止マニュアル等、その内容は制度や法令の変更に応じて見直しと改訂を行っている。改定内容は各園へ伝達され、修正や差し替えを行うようにしている。保育園のしおり(重要事項説明書等)の内容の見直しも毎年行い、制度や法令に照らし合わせて齟齬の無いように注意している。また園内施設の安全確認等は、各種チェック表を定めて毎日、毎月定期的に確認を行うようにしている。		
年度初めの職員会議で、園の重点目標等について全職員へ伝えている 園では4月の職員会議の中で、法人理念「ほっとしたつながりで育ちあいましょう」と、職員行動指針「誠実・信頼・成長」について、園長からの話と共に再確認している。職員重点目標として、目の前の子どもの姿をよく見る・子どもの意見表明の機会を大事にする・健康に努める・NO残業デイを作る等を、職員と確認し合っている。さらに保育重点目標や今年度の事業計画の重点項目の資料を配布して、職員と内容を確認し合っている。年度の始めに今年度の重点目標を子どもと職員の視点で明確に示し、職員が統一した気持ちで職務にあたれるようにしている。		
職員の委員会活動での提案により、様々な見直しを行っている 法人では委員会活動を通して、職員が園全体の運営にも意識して関わるようにしている。委員会は、防災委員会・環境委員会・リスクマネジメント委員会が設けられて、定期的に園内での取り組みや、法人3園で集まり会議で報告し合っている。例えば防災委員会では、災害時の園内の備蓄品の品物や数量の確認と充実に取り組んでいる。今年度、防災委員会からの提案の一つとして、難訓練の際子どもが防災頭巾を扱いにくい様子から防災頭巾の変更を提案している。帽子型の防災頭巾に買い替えたことで、子ども達が被りやすく避難しやすくなっている。		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	36 / 36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		☐ 非該当
評価項目1の講評			
一人ひとりの子どもの全体的な姿を把握したうえで、保育を行っている 園では一人ひとりの子どもの姿を児童票の「保育経過記録」の用紙に定期的に記録して、成長発達の過程を確認している。さらにその内容は0, 1, 2歳児は個別の指導計画、3, 4, 5歳児はクラスの指導計画の内容に反映するようにしている。毎月のカリキュラム会議では、個別の子どもの様子についてエピソードとして話し合い、ミニアセスメント会議では子どもの困り感を子ども主体で検討し合う等、子どもの姿を職員間で様々な見方を通して全体的に捉えようとしている。家庭での様子や保護者の状況も含めて、職員間で共有しながら保育を行っている。 日常的な異年齢保育を開始して、子ども達の遊びや友達関係が広がっている 昨年度末の職員の提案から、今年度3, 4, 5歳児の異年齢保育に取り組んでいる。当初は3, 4歳児を主体に行い一緒に散歩へ出かけたり保育室を開放して、子どもが好きな場所で遊べるようにしている。徐々に保育室のパーティションを常時開放し、5歳児も参加して3, 4, 5児室を自由に行き来している。好きな場所や活動を選択できるよう保育室を4つのコーナーに分けて充実させ、さらに縦割り3グループを作っている。グループで5歳児が中心となり話し合いながら活動を活発化させ、毎日の給食もグループで食べる等、遊びや友達関係が広がっている。 子ども同士のトラブルに対して、子どもの気持ちを尊重した対応を大切にしている 今年度の重点目標に「子どもの権利・意思表明を具体化した保育」掲げて、取り組んでいる。子ども同士のトラブルの際には傍で様子を見守り、手が出そうなどときには未然に防ぐように配慮したり、自分たちで解決できそうな場合には、解決するまでを見守るようにしている。なかなか解決しない時には双方の子どもの気持ちをくみ取り、確認して伝えきれない内容を代弁して伝える事で、お互いの気持ちを理解できるように援助している。子どもの気持ちを尊重し、お互いの気持ちや思いにも気づけるような対応を心掛け、保護者にも丁寧に伝えている。			

2

評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

登園時には保護者と、子どもの健康状態や様子を確認して職員間で把握している

登園時には0、1、2歳児は個別の連絡帳の内容を確認しながら、直接子どもに触れながら指診を行っている。3、4、5歳児は保護者に直接子どもの様子や健康状態を確認し、子どもとも挨拶を交わしながら視診を行っている。顔色や様子等気になる場合には、保護者と一緒に確認してから受け入れるようにしている。保護者の連絡事項は登校園チェック表に記録して、担任保育士へ直接引き継いでいる。園児の登降園の時刻や体温の入力は、システムのタッチパネルを使用して保護者が入力し、夏季の期間にはプールや水遊びの可否の入力も願っている。

遊びの環境を通して、子ども達に基本的な生活習慣が身に付くよう援助している

園では保育室に年齢に応じた生活遊びの環境を設定して、子ども達が遊びながら基本的な生活習慣を学んだり、身に付くように援助している。1歳児室の玩具棚には洗濯ばさみやスプーン、皿、人形等が置かれて、ごっこ遊びやままごと遊びを楽しみながら、指先の発達やスプーンの使い方を学んでいる。2歳児室にはスプーンの移し替えの玩具やパズルの他に、ままごとコーナーを充実させて子ども達がごっこ遊びをする際には、保育者も参加して一緒に遊びながら手先の動きの発達や、人形の洋服の着脱や布団の畳み方等を知らせ意欲や関心に繋げている。

3

評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

保育園ならではの様々な活動を通して、子ども達が楽しみながら学んでいる

夏には全クラスで年齢に沿った水遊びや氷や寒天、絵具、泡遊び等、工夫した遊びを沢山取り入れて、子ども達の五感を刺激しながら楽しんでいる。年間を通した外部講師によるリトミック教室、職員による運動遊びや制作活動等、毎日の様々な活動を通して子ども達が楽しみながら学んでいる。さらに今年度から法人3園の5歳児交流保育を定期的開催して、5歳児ならではの様々な集団活動を子ども達が楽しんでいる。集団ならではのルールのある遊びや、電車に乗り高尾山遠足、避難訓練、野菜の収穫体験等を通して社会性やルール等も学んでいる。

絵本やわらべ歌を通して、子どもの想像力や感性を育てている

園では全ての保育室に絵本コーナーを設定して、いつでも子どもが自由に絵本に触れられるようにしている。毎月季節や発達に応じた絵本を選択して保育室内に子ども向けに飾り、毎日読み聞かせの時間を作ることで、子どもが絵本の世界に触れ想像力を育めるようにしている。玄関には大きな絵本棚と椅子が設置されており、日常的に幼児クラスの子も達が読みに来たり、今年度から送迎時には親子で絵本を読めるようにしている。また、わらべ歌も日々の保育の中で職員が遊びながら歌い、園だよりに掲載して保護者も家庭で親子で楽しめるようにしている。

散歩や戸外遊び等、子ども達が自然の変化を肌で感じれる取れるよう工夫している

お天気の良い日には朝から夕方まで、隣接している公園に出て子ども達が広い場所で思い切り走り、様々な自然物に触れている。園の周辺には大小の草木や沢山の花が植えられている。他にもいろいろな公園へ散歩に出かけて、子ども達が春には桜を見たり秋には落ち葉拾いや枯れ枝を集める等、日常的に自然に触れている。2歳児がダンゴムシ集めに熱中したり、梅雨の時期には雨の音を聞いてみよう、職員がバケツを持って子ども達と一緒に玄関の外に出て、バケツに落ちる雨の音に耳を澄ませる等、季節の変化を子どもが感じ取れるように保育を工夫している。

19

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している	評点(〇〇〇)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当	●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当	●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当	
評価	標準項目													
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当												
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当												
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当												
	評価項目4の講評													
	集会を再開して、季節の行事の由来や意味をわかりやすく子ども達へ知らせている 日本ならではの季節の伝統行事を大切に、幼児クラス対象の集会を再開して、子ども達へ由来や意味をわかりやすく楽しく知らせている。七夕会では子どもが笹飾りを作り、短冊は家庭へ配り親子で願い事を笹へ飾り付けてもらい、当日の七夕会ではペープサートのお話しを通して由来を知らせている。お月見会では事前に5歳児にお月見や団子の意味と数を知らせ、本物の月見団子作りを行っている。子ども達がこだわり、数や大きさを工夫して作り飾り付けて、当日は担当の職員の創意工夫の下、由来や意味をわかりやすく楽しく子ども達へ伝えている。 行事に向けた話し合いや練習を通して、友達と協力し合うことの大切さを実感している 5歳児のスポーツデイの取り組みでは、子ども達の話し合いで4月から遊んできたパラバルーンを披露することに決めている。実際にパラバルーンの技や内容を考え話し合いを進めていくが、意見がまとまらずようやく練習を開始しても、動きが決まらずそろわなかったりとまとまらない状態となっている。担当が動きについて提案しながら少しずつ練習を重ね、当日は全員がそろって上手くでき、保護者からの大きな拍手にやり遂げる体験となっている。子ども達が行事への取り組みを通して友達と協力しあう大切さを実感し、さらにその後の団結力に繋がっている。 行事までの子ども達の取り組みの様子を伝え、保護者の理解と協力を得ている 園では行事の日程を平日と土曜日を組み合わせるようにし、年度当初に年間行事予定表を配布することで、多くの保護者が参加しやすいように配慮している。全ての行事は日常の保育活動のアクセントとして、子ども自身が活動することや表現する喜びが持てるような行事を心掛け、見せることを目的にした子どもに無理な行事は行わないようにしている。更に3、4、5歳児では子ども達の話し合いで進めるようにしており、その段階からドキュメンテーションや口頭で子どもの姿を保護者へ伝えることで、保護者の理解や協力を得るようにしている。													
5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている	評点(〇〇)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当	●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当				
評価	標準項目													
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当												
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当												
	評価項目5の講評													
	保育時間の長さを考慮して、保育室にくつろげる空間を作り出している 園では保育園で過ごす子どもの時間の長さを考慮して、各保育室に子どもがくつろげる空間を作るように配慮している。0歳児室には絵本コーナーにクッションマットを敷いたり、遊びのコーナーを小さく仕切り畳やマットを敷いて、家庭的な雰囲気大切にしている。1歳児室のままごとコーナーには薄いカーテンで天蓋を設けて、落ち着いた場所になるよう工夫している。2歳児室では棚下の低く狭い空間にクッションを置いて、子どもがゆっくりできる空間を大切にする等、年齢に応じて保育室に工夫を凝らして、子どもがくつろげる空間を作り出している。 子どもの人数や時間に応じて合同保育を行い、楽しく過ごせるよう配慮している 今年度から3、4、5歳児が異年齢保育を実施していることで、夕方の帰りの会終了後から、3、4、5歳児室を開放して好きな場所で遊んでいる。子どもが少なくなる18時過ぎには3、4歳児の部屋で過ごし、そのまま延長保育となり、延長保育の時間帯も子ども達が自分の遊びを継続できるようにしている。0、1、2歳児は、17時半頃から子どもの人数に応じて1歳児室で合流している。遅番から延長保育の時間帯には非常勤保育士を固定化して配置し、給食室手作りのおにぎり等の捕食も提供して、子どもや保護者の安心感を高めている。													

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている	☐ 非該当																	
評価項目6の講評 子どもが楽しく、落ち着いて食事がとれるよう工夫している 法人3園の栄養士による毎月2週間サイクルの献立を立案し、園内で調理を行い温かいものは暖かく冷たいものは冷たく、適温給食の提供に努めている。献立は旬の食材を多く使用した和食中心とし、出汁を生かした薄味にこだわり、子どもに食べやすく親しみのある内容にしている。子どもの食事時間には栄養士が巡回して食べる様子や食べ方等の把握に努め、その場で子どもとコミュニケーションを取りながら作り手として関わっている。毎日のミーティングで喫食状況や職員の意見を確認し、2回目の食事の提供の際には改善しながら提供している。 行事食やお楽しみ献立を提供して、子ども達が食への期待感を高めている 行事の日には、その行事にちなんだ献立や盛り付け、形等にして、子ども達が食事でも行事を楽しめるよう工夫している。夏祭りの日には焼きそばや焼きトウモロコシを提供したり、年末子ども会の日の給食にはお星さまコーンライスやチキン、クリスマスツリーサラダ等、おやつにはハート形のパウンドケーキを提供している。子ども達が星やハートの形に気がつき、喜んで歓声をあげながら味わっている。他にも月に1度のお楽しみ献立を提供したり、3月には卒園する5歳児のリクエストに応じた献立を提供する等、子どもの食に対する期待感を高めている。 給食の写真の展示やレシピの配布、給食だより等を通して保護者と連携を図っている 毎日の給食は離乳食も含めて写真で明示して、お迎えの際に保護者に量や形状、内容等を見てもらえるようにしている。また子どもが家庭で「美味しかった」の声に保護者からレシピが欲しい等の要望が寄せられた時には、栄養士がレシピを提供して家庭での参考となるようにしている。毎月の給食だよりには、今年度は家庭でもできるおやつや漬物等の簡単レシピを掲載して、保護者の家庭の食生活の参考になるようにしている。また食中毒や夏バテ等の食に関する情報も提供して、保護者と連携して子どもの食生活の充実に向けて取り組んでいる。																			
7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している 評点(〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている</td> <td>☐非該当</td> </tr> <tr> <td>☒あり ☐なし</td> <td>3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている</td> <td>☐非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当						
評価	標準項目																		
☒ あり ☐ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	☐ 非該当																	
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	☐ 非該当																	
評価項目7の講評 子どもへの健康教育を通して、自分の健康へ興味関心が持てるようにしている 園では看護師による子どもへの健康教育を行っている。4月にはトイレの使い方、5月には手洗いやうがい指導、6月にはプール遊びの前に「プライベートゾーンについて」を実施している。他に今年度は区の歯科衛生士による「歯磨き指導」を受けている。4、5歳児対象に、動画を見ながら歯磨きの仕方を学ぶことで、子ども達が改めて歯磨きの大切さを学んでいる。毎年の健康教育の積み重ねと保育士による日々の援助、手洗いポスターの掲示等の環境の整備により、子ども達が自分の健康に対する興味関心、意識を高められるように工夫している。 医療的なケアが必要な子どもには、医療機関の指示に応じた対応を行っている 子どもの状況に応じて、園での与薬が必要な時には、「保育園で与薬する場合について」の書面を配布しながら保護者に丁寧に説明を行っている。書面には医師からの「与薬指示書」と保護者記載の「与薬連絡票」に応じて、預かること等が記載されている。熱性けいれん等に対する座薬の預かりは基本的に行っていない旨と、やむを得ず預かる際の必要事項も記載されており、園長、看護師、保育士との面談の上決定している。預かる薬等の情報は全職員で把握して、定期的に使用方法等を含めたシミュレーション等も行い、適切に使用できるように努めている。 子どもや園内の、安全で衛生的な環境の整備に取り組んでいる 子どもが過ごす園内の環境について様々な感染症を考慮して、玩具や保育室の清掃、消毒方法等を変えることなく丁寧にやっている。0歳児室は特に衛生的で安全な環境を作り、入園初期は環境の変化による子どもの体調の変化を見逃さないよう、看護師が出来るだけ0歳児保育に関わるようにしている。手洗い場には手洗いポスターの掲示とペーパータオルの使用を継続し、室温や換気状態を定期的に確認している。また、リスクマネジメント委員会を中心に、ヒヤリハットのデータ集計による保育室の危険箇所を改善する等、安全な環境整備にも取り組んでいる。																			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 保護者同士が交流できる機会を設けている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当	
評価	標準項目																			
☒ あり ☐ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	☐ 非該当																		
評価項目8の講評																				
保護者の様々な事情に配慮して、支援や援助に努めている 園では様々な事情の家庭の子ども達を受け入れており、全職員が全園児の家庭の事情や状況を把握している。登降園時には子どもや保護者の様子、連絡帳の内容に注意して気になる場合には担任保育士や副園長、園長から声をかけている。保護者からの相談にも応じて個別面談を行い、状況に応じて行政と相談しながら支援や援助に繋げるようにしている。他にも保護者の就労形態の多様化に応じて、無理なく保育園生活が送れるよう送迎時間に配慮したり、突然の保育時間の延長や延長保育の申し込みにも柔軟に対応する等、保護者支援に努めている。 保護者会や行事を通して、保護者同士が交流できる機会を設けている 今年度は近隣の会館を借り、対面式でのクラス別保護者会を平日の夕方に時間に開催している。春の保護者会では今年度のクラス目標と進級してからの子どもの様子を、動画で紹介しながら今後の子ども成長発達の特徴等を伝える事で、保護者が育児の見通しが持てるようにしている。さらに保護者同士のフリートークの時間を設けることで、育児の悩みや楽しさ、面白さを保護者同士が共有できるようにしている。また、今年度のスポーツデーでは親子が触れ合う事を主体にして、親子種目を増やして職員も一緒に楽しめるように競技内容を工夫している。 日々の保護者とのコミュニケーションを通して、園への信頼関係を深めている 送迎時には、職員が保護者と直接コミュニケーションをとることを大切にしている。受け入れ時には前日の体調不良やけが、トラブルがあった時には、必ずその様子を担任や看護師が確認するようにしている。お迎えの時には一人ひとりの子どもの様子を口頭で伝え、保護者と面白さや楽しさを共有できるようにしている。実際に、職員が子どもと真剣に向き合っていることや、子どもの変化に真っ先に気づいて知らせてくれること、子どもや保護者の気持ちに寄り添ってくれることに満足している状況がうかがえ、園への信頼関係の深まりが感じられる。																				
9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> <tr> <td> ☒あり ☐なし </td> <td>2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している</td> <td> ☐非該当 </td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当	☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当										
評価	標準項目																			
☒ あり ☐ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	☐ 非該当																		
☒ あり ☐ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	☐ 非該当																		
評価項目9の講評																				
地域との繋がりや交流会を通して、子ども達の多様な体験の場を広げている 毎日利用している隣接する公園の草取りや落ち葉はきを、毎朝職員が行い地域の方と挨拶を交わしたり、町会の避難訓練にも参加している。自治会会員として集会には園長が参加して近隣の情報を収集したり、自治会の花植え体験に5歳児と職員が参加して地域の方と交流している。また地域の農家の方との繋がりを大切にして、畑での大根掘りやジャガイモ堀り、ミカン狩りを子ども達が体験している。今年度は法人3園5歳児の定期的な交流会を行い、様々な公園、高尾山への遠足、起震車煙中体験、清掃工場見学等、子ども達の多様な体験の場を広げている。 様々な地域支援事業を行い、園児が地域の方と交流できる機会を大切にしている 園では一時保育専用の保育室を設置して、定員10名までの地域の子どもの一時預かりを行っている。保育所体験も再開して0歳児の親子や妊婦さんを受け入れ、0歳児室で在園児と触れ合い離乳食を見ながら量や形状等を参考にしている。一時保育の利用者や保育所体験の親子をスポーツデーに招待して、1歳児と一緒に親子でスタンプラリーも楽しんでいる。年末には法人のホールを借りて、地域の子どもの向けミニコンサートも企画している。ポスターを掲示板やぼぼちゃん広場に掲示して広く参加を呼び掛け、当日は在園児も参加して一緒に楽しんでいる。																				

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	3-3-2	地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている
タイトル①	近隣住民との良好な関係が構築されており、地域で子どもが育つ環境を整えている	
内容①	近隣に団地がある立地条件の中で、日頃の保育でも団地の敷地で子どもが外遊びする場面が多くなっている。地元の自治会が主催するイベントに職員が協力したり、いつも使用している公園の草むしりを率先して行う等の積み重ねで、お互い顔の見える関係が構築されており、子どもが近隣住民に見守られながら遊ぶ様子がうかがえる。カブトムシの幼虫や制作に使う蔓をいただく等、近所づきあいの感覚で地域とつながる機会が年間を通してある等、地域の中で子どもが育つ環境が整っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	3, 4, 5歳児の異年齢保育を開始して、子ども達の遊びの世界を広げている	
内容②	職員の発案により4月から、3, 4, 5歳児の異年齢保育を開始している。。当初は部屋の仕切りを閉めたまま3, 4歳児の日中の交流から開始し、徐々に仕切りを全開し5歳児も参加して3, 4, 5歳児室の好きな場所で遊んでいる。12月には5歳児室を制作中心とした環境、3歳児室をままごと遊びの環境、4歳児室を積み木等の構成遊びの環境の充実を図り、子どもが主体的に場所を選択して遊んでいる。縦割り3グループも作りクリスマスにちなんだ制作活動に取り組み、給食を一緒に食べる等、グループ毎の活動の充実も通して遊びの世界を広げている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル③	子どものケガや体調不良の際には、子どもと保護者へ丁寧な対応や援助を心掛けている	
内容③	子どもが園内でケガをした際には現場や状況を看護師が直接確認して、病院へ行く必要があるかを園長と判断し、必要な場合には保護者へ電話連絡を入れてから受診している。小さなケガや嘔みつき等のトラブルの際にはお迎えの際に、保護者を現場へ案内して状況を丁寧に説明して理解を得るようにし、どちらもケガが治るまで継続して確認している。発熱や体調不良の際には、感染症5類への移行を受けて一律に37.5度以上で連絡するのではなく、日中の子どもの様子や機嫌、食欲、睡眠等の全体的な様子を把握して、保護者へ電話連絡で様子を伝えている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	就学を見据えた交流保育の中で、子ども達が様々な体験を通して集団活動を身に付け、社会性を育んでいる
	内容	今年度より法人3園の5歳児が、毎週1回、定期的に交流保育を行っている。就学にむけて集団の大きさに慣れる事や、集団での活動の楽しさを感じることを目的として実施している。園内や近隣の公園での集団遊びを通して、集団の大きさに慣れながら、友達関係も育んでいる、さらに合同活動計画を立案して近隣の農家での大根掘りやジャガイモ掘り、ミカン狩り等や、プラネタリウム見学、散歩、高尾山登山、起震車体験、ゴミ工場の見学等、様々な活動を行っている。出かける機会には交通ルールや公共施設内で静かに過ごすこと等、社会性を育んでいる。
2	タイトル	子どもの権利擁護や主体性の尊重など、園が目指す保育について各職員の理解が進み、子どもの尊厳を尊重した保育姿勢の維持に努めている
	内容	子どもの権利擁護や主体性の尊重を目指した保育を展開することが、職員全体に浸透してきており、子ども一人ひとりの名前や発達状況等を全職員で共有している中で保育にあたっていることはもとより、子どもの人権シートや自己確認シートに基づき、個別に自らの言動等を振り返る機会等を通して、子どもの尊厳を尊重した保育姿勢の維持に努めている。実際に、子どもへの関わり方を検討する場面では、子どもの目線に立ち、人権に配慮した保育の進め方になっているか、声かけ方法は適切か等を話し合い、最終決定する様子も見受けられる等、浸透している。
3	タイトル	日々の散歩や戸外活動等を通して、子ども達が直接自然の変化に触れたり感じとれるよう、保育に工夫を凝らしている
	内容	園では天気の良い日は朝から夕方まで、隣接する公園で遊んだり地域の公園へ散歩に出かけている。ねらいに応じて広い公園や固定遊具のある公園、歩く距離も考慮して行先を決定している。梅雨の時期には紫陽花探しの散歩に出かけ紫陽花とカエルを発見して大興奮し、秋には虫探しや木の実集めに出かけ、制作に使う等している。雨の日には「雨の音を聞いてみよう」という保育士の声に、2歳児の子ども達が玄関の外に出て、バケツに落ちる雨の音に耳を傾けて驚いている。0、1、2歳児の廊下の壁には、草や小枝等を飾り子どもが感触を楽しんでいる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	情報伝達方法の統一化でスムーズな情報伝達に努めるとともに、効率化を進めることで話し合う時間を確保していくことが期待される
	内容	園では毎日、ミーティングの時間を確保して各クラスの職員が集まり伝達したり、今年度から試行的に導入されたインカムを活用する等で職員相互に情報共有しやすい環境整備を進めている。ただし、ミーティングに出席した職員の伝達方法がクラスにより異なることや、その日に検討したい事柄を話し合う時間が十分とれない状況が課題となっている。今後は、ミーティング内容を一つにまとめて共有したり、ITを活用して一斉に周知する等で伝達方法の統一を図るとともに、効率化を促進し、話し合う時間を確保していくことが期待される。
2	タイトル	園が目指している保育方針や日頃の保育内容について周知する取り組みをさらに充実し、保護者の理解を深めていくことが望まれる
	内容	園では、カリキュラム会議や行事の内容等を検討する場面で、園が目指している保育に基づいた実践となるように努めている一方で、保護者に対して園の方針や実際の保育内容を伝える機会をさらに充実・強化していくことが期待される。具体的には、現在、実施しているドキュメンテーションの取り組みを安定的に進めることに加えて、園の保育理念に基づく行事の開催についても、保護者の納得性が高まる説明に努めるとともに、実施後にアンケートを実施して浸透状況を把握する等、園の方針の浸透状況を改めて確認しつつ、理解を得ていくことが望まれる。
3	タイトル	保育現場で発生する課題等をリーダーが判断できる力を養う等により、組織力をさらに発揮できる体制を構築していくことが期待される
	内容	園が開設されて約9年が経過し、職員の定着率が高まる等、運営基盤の安定化がみられている。各職員が創意工夫したり、内外研修で学ぶ機会を持つ等で、保育の専門性向上への意欲も高まっている状況がうかがえる。一方で、園運営をまとめるリーダーの育成が課題となっている。今後は、組織力向上を目指してリーダー会議を計画的に実施することで、園全体の一体化を高める場を設けるとともに、保育現場で発生する課題について、リーダーが判断できる力を養い、園長や副園長へ経緯を報告する等、組織力を発揮できる体制を構築していくことが期待される。